

～鹿児島・大隅ハイブリッドラウンド～

九州体育・保健体育ネットワーク研究会

鹿児島・大隅ラウンド 令和2年12月5日(土) 鹿屋体育大学 講義棟205教室 & ZOOM

はじめに・・・

今年度は、8月に予定されていた鹿児島黒豚ラウンドが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、延期となりました。検討を重ねた結果、今年度は、大隅ラウンドとの合同開催という形をとり、感染防止対策を講じた上で、鹿屋体育大学にて実施しました。

桐蔭横浜大学から佐藤豊先生にお越しいただき、鹿児島県内から9名の先生方と10名の大学生(と小学生1名)、またWEBでは、北は新潟県、南は沖縄県まで10名の先生方にご参加いただきました。

コロナ禍でも学びを止めず、出来ることからコツコツと進めていこうという思い仲間が集い、保健体育への熱い思いが共有された、心温まるラウンドとなりました。主な内容は以下のとおりです。

1 トピックス：「態度」の深掘り

佐藤豊先生から、運度やスポーツを通して育てたい態度とそれをどのように育成するのかということについて、発達の段階を踏まえて「すすんで行う」から「主体的に取り組む」へ導く授業づくりのヒントや「なぜ・どのように・何を」といった知識の学習の必要性を交えて情報提供していただきました。

2 実践報告：曾於市立末吉中学校における球技「ゴール型」の実践

自ら運動への意欲・実践力を高めることができる生徒の育成～運動が苦手な生徒に対する取組を通して～

曾於市立末吉中学校の岡島慶貴先生より、公開授業で行われたバスケットボールの授業を中心に実践報告していただきました。運動への意欲・実践力を高めるために、習熟度に応じたグループ編成や一斉学習とグループ学習のタイミングなどの工夫を紹介していただきました。また、主体的な学びを実現させるために、ゲームの様相に応じて「Key Player」という特別ルールを導入例が紹介されました。男女共習でのゴール型の授業にあたってのヒントを様々な視点で提案していただきました。

3 ワークショップ：「態度」の指導の具体化・教材化と評価について

球技を中心に校種別で検討しました。「知識・技能」を中心に単元を計画したり、評価方法を考えたりすることが多い大学生にとっては、体育の授業で何が身に付くのかということについて改めて確認する良い機会になりました。



4 おわりに

新型コロナウイルス感染拡大が進む中、開催自体が危ぶまれましたが、多くの先生方の温かいご支援とご協力、サポートのおかげで実施することができたことを幸せに思います。いろいろな方々との交流を通して、体育や保健の新たな可能性に気づくことができたり、刺激を受けたりできることが、明日からの何よりの活力となります。このような時期だからこそ、人と人を結ぶ取組が必要であると痛感した一日でした。

文責：鹿児島工業高等学校 岡山啓
鹿屋体育大学 梶 ちか子